

「神はすべてを益とされる」 VI

ローマ8：28

堀田修一 23・10・1

神を愛する人たち「(まず神に愛され、神の愛を信じ神の愛に感謝し神を愛する人たち)、すなわち、神の御計画にしたがって召された人たち(神の招きにより、主を信じた人たち)のためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています」ローマ8：28

I 神に「召される」とは、自分が神から関心を寄せられていると知ることです。

1. 神が自分のために一切を行い、自分の人生に介入し、自分を捕らえてくださった恵みを知ることです。これは、何か面白そうだから、キリスト教をかじってみようとするとは違います。「すべてのことがともに働いて益となる」人々とは、自分の人生のある時に、神の御手が自分のもとにやって来て、自分をつかんで下さった恵みを感じている人々です。パウロは、そのことをこう言っています。「私は、すでに(救いの完成の栄化を)得たのでもなく、すでに完全(栄化)にされているのでもありません。ただ(主の姿に変えられる完成を)捕らえようと追及しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです」ピリピ3：12。「神がすべてのこととともに働いて益とされる」と告白できる人は、自分が神を捕らえたのではなく、神が私を「捕らえてくださった」と深く知る人です。

2. 神は、私たちの人生に介入されます。すると、自分の心には罪(悪い心)があると気づかせられ始めます。これまでの生き方が、真に正しい愛の神から離れたものだったことを確信させられます。これまでは、聖書に全く興味がなかったのに、私たちが神によって召される(神のもとに招かれる)とき、聖書はただの人間の言葉ではなくなります。Iテサロニケ2：13のみことばの通りです→「あなたがたが、私たちから聞いた神のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実そのとおり神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いています」。神が、私達を召される時、聖書のみことばを深く求めるようになる。御聖霊の働きで。

II 神に召され(招かれ)、神に捕らえられ聖書のみことばに触れるとき

1. 私たちは、自分自身の無力さと真の救いの必要を御聖霊によって感じるようになる。主は言われた。「わたしが来たのは、正しい人(自分は正しいと思い上がっている人)を招くためではなく、罪人(自分の罪深さを認める人)を招いて悔い改めさせるためです」ルカ5：32。主は、まず罪人を召して罪を認めさせ、それから、ご自分の救いの偉大さを明らかに示されます。それ故に、自分が罪人で完全に無力だと感じていることこそ、神に召されている、招かれていると確信して良い証拠です。人にそのような罪の自覚と無力さを覚えさせることがおできになるのは神である聖霊だけです。このような召し、救いへの招きを行われるのはご聖霊の御業です。

2. 次に私たちは、私たちのほむべき主なる救い主イエス・キリストとその救いがどれほど素晴

らしいものかを御聖霊により悟り始めます。主がまことの救い主、神の御子と信じます。その真理はご聖霊が働かれるキリスト者しか理解できない。この世の多くの支配者はその真理を知らない。「もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかった」（Ⅰコリント2：8）でしょう。ユダヤ人の宗教指導者たちは主のことを「あの者」（ヨハネ9：28）、この「大工」（マタイ13：55）と呼び、「除け。除け」（ヨハネ19：15）と叫んだ。ただご聖霊だけが、イエス様は神の御子であり、神であるという真理を確信させ、そのイエス様の私たちの罪の贖い、償いの十字架の死とその十分さ、また、死に勝利された復活の栄光という真理を確信させてくださるのです。

Ⅲ 主に召され、捕らえられ、救われた人の最大の願いは主をより深く知ることとなる

1. 私たちは、主に召され、捕らえられると、自分を神に引き付ける力を感じるようになります。

「神を愛する人々、すなわち、神のご計画にしたがって召された人々のためには、すべてのことがともに働いて益となる」。あなた神の御手につかまれ、捕らえられています。「あなたがたがわたしを選らんだ（捕らえた）のではなく、わたしがあなたがたを選び（捕らえ）、あなたがたを任命しました」ヨハネ15：16。「わたしは決してあなたを見放さず、あなたを見捨てない」ヘブル13：5。その結果、私たちは自分自身の立場に驚かざるを得なくなります。神は、こんな罪人の私を選び、捕らえてくださった。そして決して見放さず、見捨てられない！「神は、世界の基が据えられる前から、この方（キリスト）にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです」エペソ1：4。このみことばも、人知をはるかに越えた恵みです。パウロは自分自身に驚いていました。「私は以前は、神を汚す者、迫害する者、暴力を振るう者でした。それでも…あわれみを受けたのです」Ⅰテモテ1：13。神の恵みに驚くことを決してやめなかった、いや、止めることはできなかったのです。私も、自らの罪ゆえに、滅んで当然の私が神に選ばれ、召され、救われ、今、生かされ神に愛されていることに驚き感謝しています。試練や苦難は私たちの人生に与えられますが、「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ」哀歌3：22。私は、「驚くばかりの」（Amazing Grace）の賛美が大好きです。いつも驚きと感謝の涙が出そうになります。

2. 私たちは、今も、神に愛され、選ばれ救いに捕らえられ、主の品性に変えられるように取り扱っておられます。神が私たちの人生に関わっておられます。

自分の人生の経験において、神の訓練を受けることの中には、ある人、ある出来事により深く傷つけられることもあります。神は苦手な人をそばにおいて訓練もされます。そのことも神は益（私たちが神に頼る、自分に愛がないと知らされ、自分を傷つけた人を赦せるように祈る、深く傷つき悩んでいる人に寄り添い、思いやりのある人に変えられる）とされます。

「神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます（祈りによる神との交わり・相応しいみことば・ある出来事・神が備えられた悩みを聞き、寄り添ってくれて祈ってくれる人を通しての慰め）。それで私たちも、自分たちが神から受ける慰めによって、あらゆる苦しみの中である人たちを

慰める（原語：「そばに、呼ぶ」「とりなす援助者となる」）ことができます」Ⅱコリント1：4。自分について意地悪な言葉が語られたとき、人々からののしられ、いわれのない批判を浴びるとき、御聖霊は、私たちの心に次のような思いを与えてくださいます。「これはわたしにとって良い事だ。私のためにもっと苦しまれた主イエスの足跡を歩ませていただいているのだ。ほめられ持ち上げられ高ぶるより良い。私にとって最も危険なのは高ぶること（神の栄光を盗むこ

と)である。神は私を愛し、へりくだらせ、神と途切れなく常に交わり続けることができる場所に私を置き続けてくださる」。神は、私たちの不利に働くと思われる事柄でさえ、ご自身の計画が前進するようにされ、私たちの益（神を深く知り、自分を受け入れ、他の人を受け入れる愛の人に変えられる）となるように働かれる。詩篇の記者と共に、神の御手にあるすべての苦難、試練について神に感謝しましょう。「苦しみに会ったことは、私にとって幸せでした。それにより、私はあなたのおきて（みこころ、みことば）を学びました」。キリスト者でない人は、苦難の中で神を呪い、神を憎み、キリスト教を軽蔑して、まやかしたと言います。しかし、主を信じ神を知り続ける私たちは、神は私達のために「すべてのことを働かせて益とされる」と神に感謝し神を賛美します。福音讃美歌「神のなさることはすべて正しい 苦き杯を飲むときさえも」と賛美しましょう！